

令和元年度第5回 感染症発生動向調査部会
議事要旨

1 日 時 令和元年8月21日（水） 14:00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 入札室（岐阜市柳戸1-1）

3 出席者

委 員 : 馬場 尚志（岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター 副センター長）
大西 秀典（岐阜大学医学部附属病院 新生児集中治療部 准教授）
加藤 達雄（国立病院機構長良医療センター 呼吸器内科統括診療部長）
オブザーバー: 加藤 いづみ（岐阜市保健所地域保健課 感染症対策係長）
事 務 局 : 居波 由紀子（保健医療課 主幹兼感染症対策係長）
中澤 千怜（保健医療課 技師）
田村 直彦（保健環境研究所 疫学情報部長）
岡 隆史（保健環境研究所 主任専門研究員）
酢谷 奈津（保健環境研究所 専門研究員）

4 議 題 （進行：加藤委員）

- (1) 前月の感染症発生動向について
- (2) 検討すべき課題、情報提供すべき事項について
- (3) 情報提供（月番委員専門分野から）
- (4) 前回の検討結果を受けた実績等
- (5) その他

5 議事要旨

【前月の感染症発生動向について】

- ・事務局からの説明は資料のとおり。
- ・月番委員のコメントについては資料のとおり。
（委員からのその他のコメント）
- ・今回県内のCRE患者で確認されたIMI型カルバペネマーゼは、染色体上にある耐性遺伝子で、IMP型などプラスミド性カルバペネマーゼと比較し伝播リスクが低いと考えられ、検出例やアウトブレイクの報告も少ない。また、第4世代セファロスポリンなどの分解能は低く、一部のβラクタム剤には感受性が残る特性があると報告されている。

【検討すべき課題、情報提供すべき事項について】

○結核

- ・事務局、加藤委員からの提案等は資料のとおり。

(委員からの意見等)

- ・外国出生患者の啓発は難しいところであるが、次のことに重点を置いてはどうか。
 - ・結核の早期発見のために、入職時や定期的健診をきちんと受けること、症状出現時には早期受診することが重要であること。
 - ・結核を早期発見することは、貴重な人材としての外国人労働者を守るだけでなく、職場全体を守ることにつながること。
- ・中小企業団体が集まる研修会は、結核の啓発を行うよい機会である。
- ・国では、入国前の結核健診を義務づける方向で動いている。
- ・外国人労働者の家族の健診をどうするかという問題は残る。

【情報提供（月番委員専門分野から）】

(加藤委員)

- ・日本呼吸器学会「咳嗽・喀痰の診療ガイドライン 2019」の百日咳に関する記載について紹介。
診断フローチャートが示されているが、成人の場合、発症から2週間以上経過して受診する患者が多いことから LAMP 法が選択されない可能性や、臨床現場では診断的価値が高くないと判断されて検査診断がなされない可能性がある。
- ・新しいレジオネラ尿中抗原キット（レジオネラ ニューモフィラの全血清型対応）発売について情報提供。

【前月の検討結果を受けた実績等】

○レジオネラ症

(事務局・保健環境研究所)

- ・医療関係者向けの情報提供として、国内・県内の疫学情報や患者発生時の行政の対応等についてとりまとめた「医療関係者向け疫学情報」を発行予定。

【保健医療課から情報提供】

(事務局・保健医療課)

- ・厚生労働省からの感染症関連通知、お知らせ等情報提供。